

地方大学・地域産業創生交付金（北九州市）〈計画期間：H30年度～R9年度（R4年度まで国費支援）〉 （革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト）

概要

- ▶ 人口減少による労働力不足に悩む**地域企業**において、現場主義・実践主義の多層的な**ロボット導入支援策**を講じることにより、**国内外における新たな生産性革命の拠点となること**を目指す。
- ▶ トップレベルの研究者を招へいし、**世界レベルのロボティクス分野の研究開発**を行うとともに、**ロボット開発高度人材の育成**を行う。
- ▶ 産業用ロボットの世界的メーカーである**安川電機**と、社会ロボット具現化センターを有する**九州工業大学**が連携し、産業用ロボットの用途拡大のニーズに応える**革新的な自律作業ロボット（人と同じ作業ができる汎用ロボット）**の研究開発を推進。



人と並んで作業を行う人協働ロボット

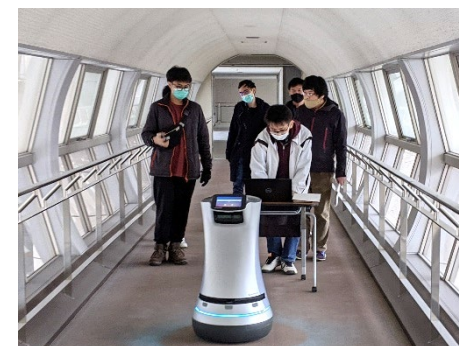
これまでの成果

（大学）

- ▶ 九州工業大学（以下、九工大）に所属する**知能ロボティクス研究者数が当初の計画以上に増加し、ロボット研究拠点として成長**（H30：23名 ⇒ R7：39名）。
- ▶ 安川電機の安川テクノロジーセンター内協業開発室に九工大の先端AI研究者や大学院生を派遣し、**ロボットシステム分野の研究機能と産学連携を強化**するとともに、九工大に安川電機との連携を推進するための一元的な窓口となる**安川連携推進室**を設置（R3～）。
- ▶ ロボットベンチャー創業者（アメリカ）を招聘し、大学院生向けの**「ロボティクスシンセシス&マネジメント（RSM）コース」を新設**（R3～）。地域企業の技術課題をテーマにした実践教育により、開発目線ではなくユーザー目線でロボットを利活用できる人材を育成。
- ▶ 北九州市内企業へのロボット導入支援などの中核である**ロボット・DX推進センター**と九工大が連携し、長期のインターンシップを通して企業の課題解決支援に取組む**「有給インターンシップ」制度を新設**（R4～）。

（産業）

- ▶ 市内中小企業のロボット・DXによる生産性向上を総合的に支援する拠点として、**北九州市ロボット・DX推進センターを設置**（R4）。
- ▶ 本交付金により、これまでのリソースでは困難であった中小企業の課題把握・個別支援が可能になり、**市内企業の新規ロボット導入件数は倍増、導入企業の労働生産性は14%向上**。
- ▶ ロボット導入を支援する**システムインテグレーターネットワーク参加企業数は倍増**し、各社売り上げも**平均2割以上向上**。
- ▶ 令和4年度、第1回「夏のDigi田甲子園」において、「中小企業DX支援加速化」の取組が内閣総理大臣賞を受賞。



RaaS（ランサムウェア・アズ・ア・サービス）を活用したロボット導入の調査をする九工大生



北九州市ロボット・DX推進センター

事業責任者：松永 守央（（公財）北九州産業学術推進機構 理事長）

主な参画機関：（官）北九州市、（学）九州工業大学、（産）株式会社安川電機 ほか

<令和7年9月時点>